

申し合わせ事項

1 選手の集合時間

- ①第1試合のチームは試合開始予定時刻の30分前までに、第2試合以降のチームは前の試合の4回終了時まで当該球場に集合すること。

2 打順表の記入と提出

- ①試合開始予定時刻30分前または前の試合の4回終了時に、所定の打順表（5枚1組）に必要な事項を記入し、必ず「ふりがな」をつけて、当該球場審判主任に提出すること。《予備提出》
- ②試合開始前に各チームの監督と審判が本塁に集まり、確認交換《本提出》により先発メンバーの確定となる。
- ③予備提出後のメンバー変更は、急な負傷か病気になった場合だけ認められる。
- ④打順表は、最初の試合については、監督会議で配布したものを使用し、その後の試合については勝ったチームが当該球場の記録員まで取りに来ること。

3 攻守の決定

- ①打順表提出の時、審判員立ち合いのもと「コイントス」によって決定する。
- ②コインの裏表の選択は、先着（打順表持参）チームに優先権を与える。

4 選手席とユニフォームナンバー、引率者について

- ①組み合わせ番号の若いチームを一塁側とする。
- ②ベンチに入れる人数は、選手18名以内、監督1名（ユニフォームナンバー30番）、コーチ1名（ユニフォーム31番または32番）、引率者1名で、最大人数は21名とする。主将は、ユニフォームナンバー10番をつける。
- ③主将（ユニフォームナンバー10番）が不在の時は、事前に分かっているものについては監督会議の場で連絡し、当日分かったものについては分かった時点で大会本部に速やかに連絡する。
- ④引率者の服装は、上が襟付きシャツかポロシャツ、下はスラックスかスカートを着用し、IDを着けること。

5 監督、コーチ

- ①抗議権は監督のみに認める。抗議はルール上の疑義に限り、判定の正確性についての抗議はできない。
- ②コーチ（教員、部活動指導員、外部指導者）の登録は1名のみとする。
- ③コーチにはフィールドイングは認めるが、選手交代・タイムの取得・抗議等の権限はない。
- ④コーチはベンチラインから出て指示してはならない。
- ⑤ベンチ内でのメガホンの使用は、監督のみ1個に限る。
- ⑥コーチャーズボックスに入るのは選手に限る。

6 競技用具の確認

- ①バットはバットゲージで確認し、規格以外のもの及び危険と思われるバットは当該球場で預かる。
- ②ヘルメットは危険防止のために着用するので、傷などがいないか安全性についてよく確認しておくこと。
- ③キャッチャー用マスクは、必ず「SGマーク」入りのものを使用すること。

7 フィールドイング

- ①競技場に入ることを許されたメンバーで行う。後攻のチームより5分間（終了予告1分前）とする。
- ②大会運営の関係で、時間を短縮したり省略したりすることもある。
- ③危険防止のためノッカーは1人とする。

8 試合開始

- ①「集合準備」の合図で、自チームのベンチ前に一列横隊に整列する。
- ②「集合」の号令と同時に駆け足でホームプレートをはさんで整列する。

9 攻守の交代・選手交代

- ①全て駆け足で俊敏に交代すること。
- ②選手の交代は、速やかに球審にその旨を通告すること。

10 雨天時、災害時における緊急対応

- ①基本的に小雨決行とする。グラウンド状況によって、時間を変更し試合を行うこともあるので、大会本部の指示に従うこと。
- ②荒天時の場合、別紙（荒天時対応）に基づき試合を行い、代表チームを決定する。また、災害などが起こった場合は、災害時緊急対応に従って代表チームを決定する。

11 その他

- ①今年度は、開会式を行わない。
- ②監督・コーチのユニフォームの上着は、選手と同色・同意匠のもの。裾を外に出すタイプのユニフォームの時は監督・コーチは中に入れるタイプでも構わない。
- ③選手が襟付きまたは、ノースリーブのユニフォームの場合、監督・コーチ・外部指導者も同じものを着用する。また、選手が半ズボンの時、監督・コーチ・外部指導者は同色の長ズボンでもよい。（サイドラインなどがなくてもかまわない）
- ④合同チームのユニフォームは統一されたものとする。
- ⑤競技期間中に複数のユニフォームを使用する際には、その旨を監督会議の場で連絡し、併せて使用するユニフォームをすべて提示する。なお、背番号は同一のものに限る。
- ⑥中体連主催の大会では、ユニフォームの背中には背番号のみとし、個人名などは付けないこと。また、ユニフォーム・ヘルメットに広告は入れない。
- ⑦競技場の外野及びフェール地域のフェンスの内側には、校旗（部旗）・横断幕・のぼり等を掲示しない。
- ⑧投球時、投手がセットしたら、リリースするまで、ベンチもスタンドも応援を中断する。
- ⑨鳴り物（メガホン、うちわ、ペットボトル等も含めて）による応援は禁止する。
- ⑩選手のサングラスの使用については、眩惑による危険防止や健康上での使用を認めるが、視野の狭窄や明るさの減衰による視覚の低下、破損について十分配慮すること。なお、アイシェードなどは認めない。監督は、選手交代の通告など審判員と会話するときにははずすこと。なお、通告はバックネット前で行うこと。
- ⑪試合後のあいさつは行わない。審判・相手チーム・ベンチ・応援席への挨拶、エール等もしない。
- ⑫打者が監督のサインを見る時には、打者席内で見ること。
- ⑬競技会場における試合中の投球練習などは危険防止のため1組とする。
※内野→外野の向きで行い、危険防止のため、カバー役を1名投手側につけるのが望ましい。
- ⑭保護者・応援者のビデオ撮影は、バックネット裏及びセンターバックスクリーン周辺は禁止とする。大会本部で指定された撮影可能な場所で行うこと。
- ⑮応援席などベンチ外から作戦指示・それに伴う助言はしてはならない。そのような行為が見られたときは、監督または該当者に注意する。
- ⑯雷鳴があった場合は試合を一時中断し、雷が鳴り終わってから20分後に試合を再開する。
- ⑰トーナメント表の時間は試合開始予定時刻である。前の試合が終了次第、次の試合を開始する。ただし、連続した試合の場合は、試合終了40分後ベンチ入りとする。